

第1章 添田町の歴史的風致形成の背景

1. 自然的環境

(1) 位置

本町は、福岡県の東南端、福岡市及び北九州市から約40kmの距離に位置し、田川郡の最南端に位置する町である。町域の北部は、川崎町や大任町、赤村、東部はみやこ町、西部は嘉麻市、南部は東峰村や大分県中津市、日田市と接する。南部の大分県と接する行政界は境界未確定となっている。



図 本町の位置

(2) 地勢

町域は、東西 13 k m、南北 16 k m、面積 132.20 k m²であり、県下有数の広大な面積を有している。地形は、標高 1,199 m を有する英彦山^{ひこさん}を主峰として、鷹巣山^{たかのすやま}や岳滅鬼山^{がくめきやま}等の山々が南部の東西に高原状に連なっており、これに直交するように幾つかのまとまった高地や丘陵地が広がり、北部の添田駅^{ちくほう}周辺に平地が広がる。英彦山は、北部九州有数の高山であり、北部の眼下には筑豊^{ちくほう}の山野が広がり、晴れた日には南部の方角に遠く阿蘇^{あそ}の山々を眺望することができる。英彦山に連なる山々には登山道や九州自然歩道等が整備されており、老若男女を問わず気軽に登れる山として、一年を通じて多くの登山客が訪れている。

また、北部に位置する岩石山^{がんじやくさん}は、ところどころに巨岩が露出する地形険しい山である一方、山頂から北西部に位置する田川盆地^{たがわぼんち}を望むことができる山として、戦国時代から戦略上の要地として重要視されてきた。

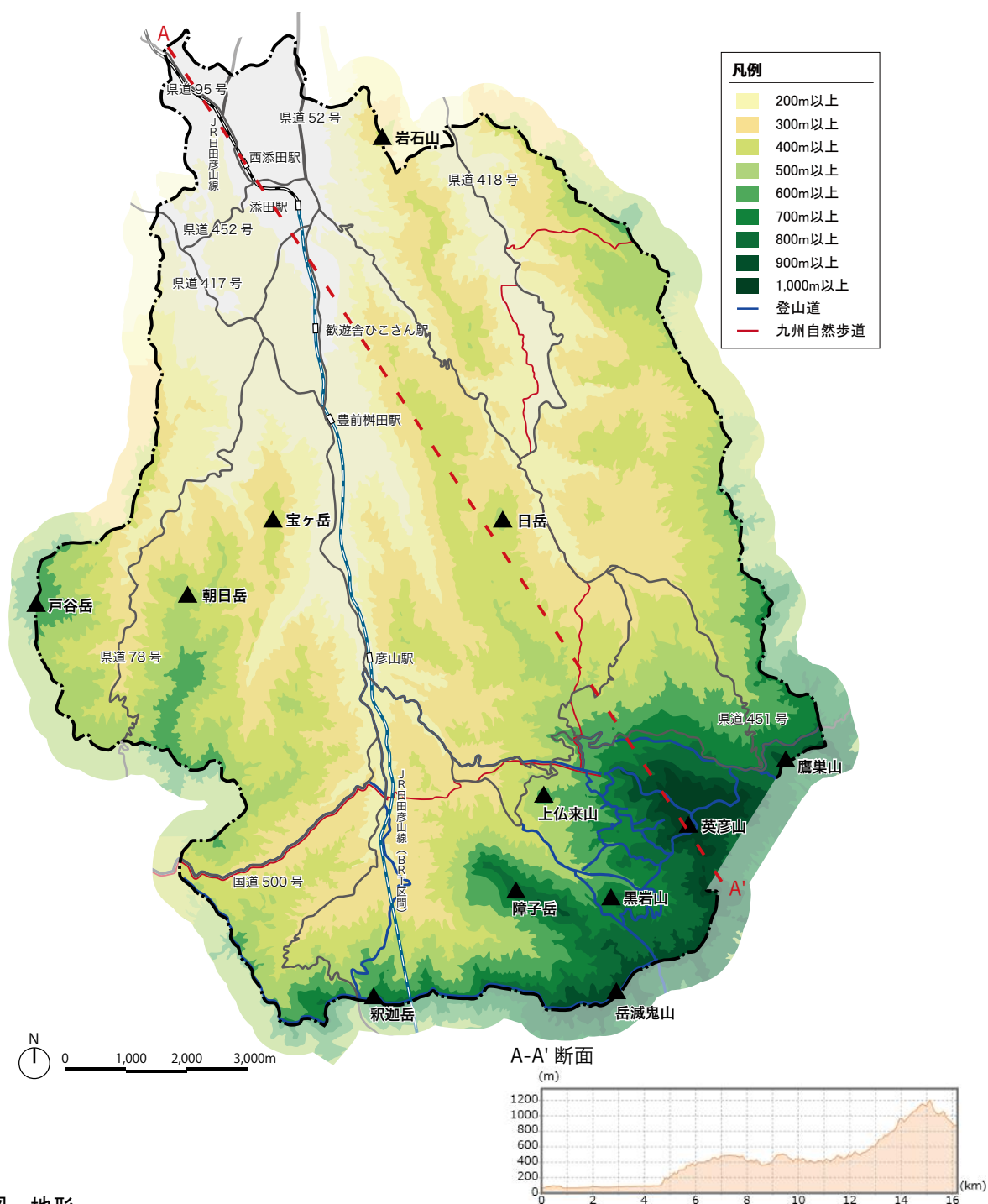


図 地形

(3) 地質

町域の南北方向で地質が変化している。南側の英彦山周辺は英彦山火山岩類などや北坂本累層となり、中央では添田（落合）花崗閃緑岩や高圧片岩類が多く占める。添田駅や添田町役場のある北部の平地部分は沖積層である。また、北部には石炭採掘岩塊（ボタ山）もみられる。

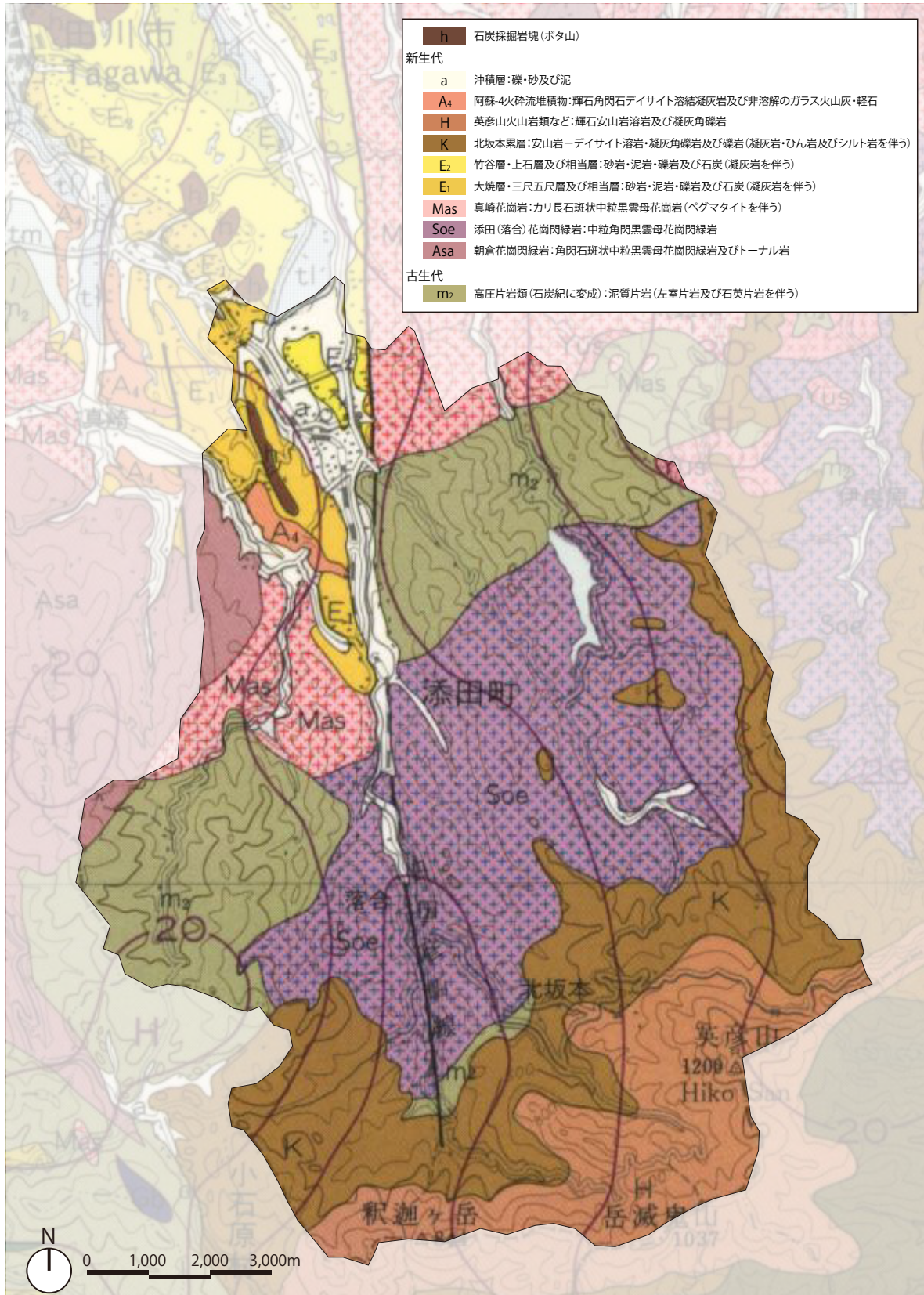


図 地質

【資料：地質図幅「福岡」（産総研地質調査総合センター）】

(4) 水系

本町を流れる主要河川は、英彦山に端を発し、本町の中央を流れる彦山川、東側の津野谷を流れる今川と、本町の西南端の町境を源流とし、西側の中元寺谷を流れる中元寺川がある。今川は、瀬戸内海南西端に広がる海域の周防灘へ、彦山川と中元寺川は、下流域で合流して遠賀川となり関門海峡の北西に広がる海域の響灘へ注いでいる。英彦山は異なる海につながる水系の源流が存在する大分水嶺であり、国内では4ヶ所のみ確認されている。

これらの河川は、英彦山一帯の諸山の水を集めたもので水量も豊富である。英彦山裾野までの山間部は高低差と狭隘な川幅により急流であるが、平野部は比較的穏やかな流れである。

上流部は深い渓谷と河川敷の桜や紅葉、蛍と相まった絶景が各所にあり、季節ごとに違った風情を醸し出して、訪れた観光客の癒しとなっている。また、河川にはハヤ（カワムツ）やゴヒナ（カワニナ）などが優占する種であるが、清流には多くの淡水魚が生育する環境がある。

町内にはダムが二つあり、洪水調整やかんがい等を目的に、昭和46年（1971）に今川の上流部にあたる下津野に油木ダムが、昭和50年（1975）に中元寺川の上流部にあたる上中元寺に陣屋ダムが完成した。

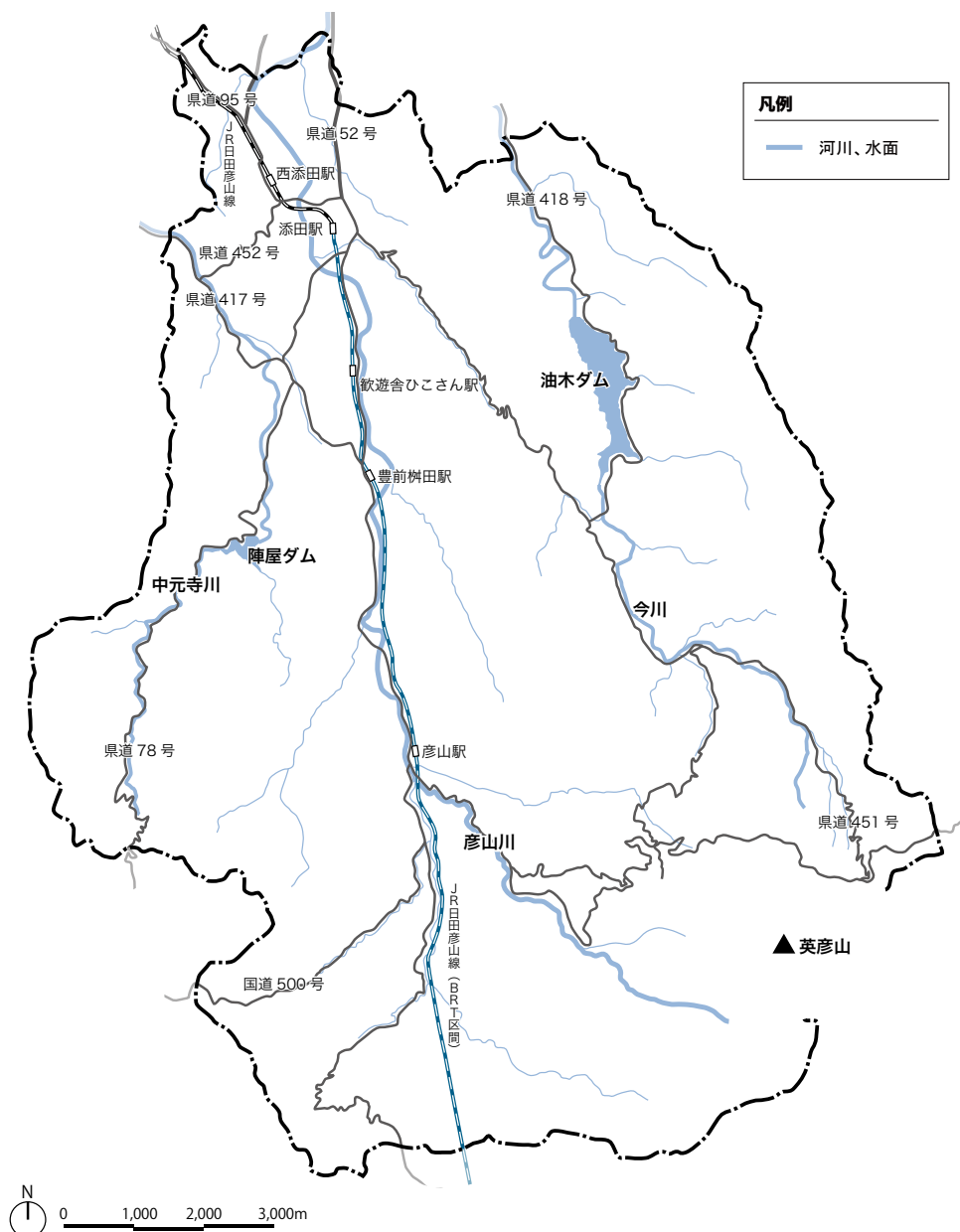


図 水系

(5) 気象

本町は、平野部の添田駅周辺から山間部の英彦山の山頂まで 1,100m 以上の標高差があるため、平野部と山間部で気象条件が大きく異なる。

平野部（添田）の気温は、年間平均気温 15.7℃であり、夏期は最高気温が約 37℃まで上がる一方、12月から3月までの冬期は最低気温が氷点下まで下がり、積雪を記録することもある。一方、山間部（英彦山）の気温は、年間平均気温 12.7℃と平野部よりも低く、相対的に涼しい一方、冬期は多量の積雪に見舞われる。

年間降水量は、平野部（添田）では 2,011.75mm に対し、山間部（英彦山）では 2,648.20mm と多くなっており、一年を通じて6月から8月の降水量が多い。

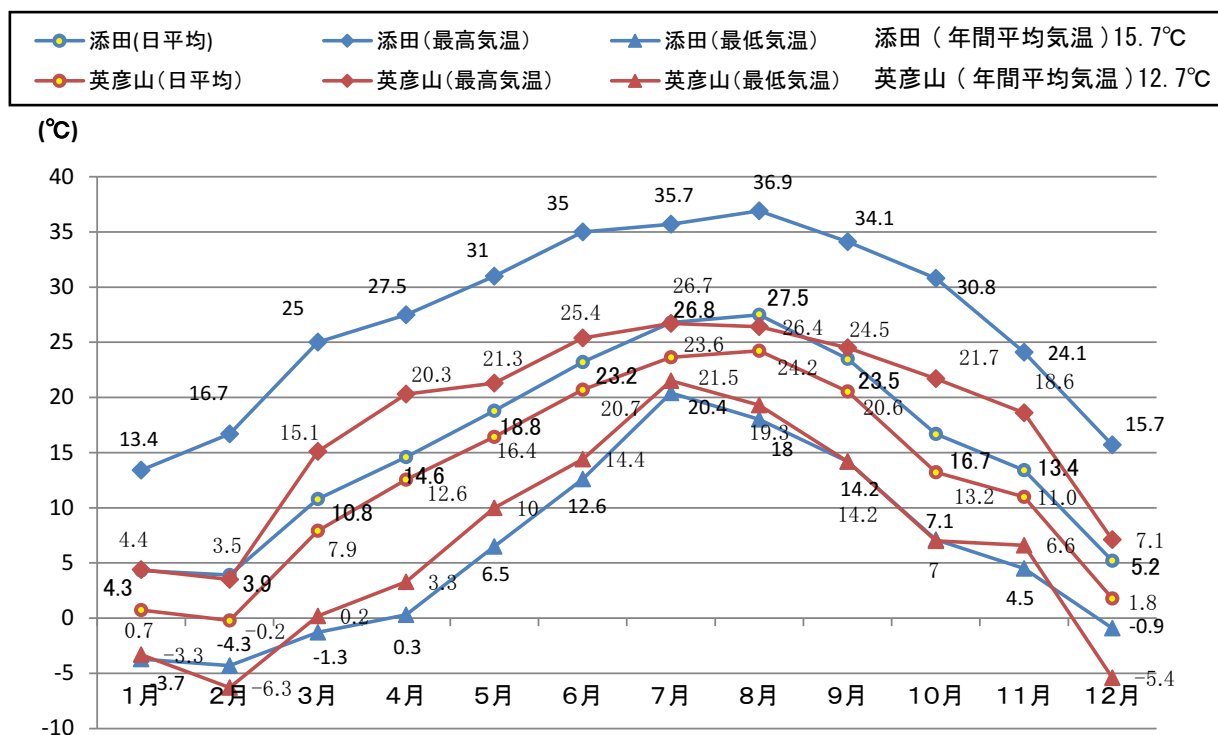


図 月別の気温

【資料：添田／気象庁 HP、英彦山／町資料】

* グラフ中の数値は、令和 4 年 (2022) のデータ

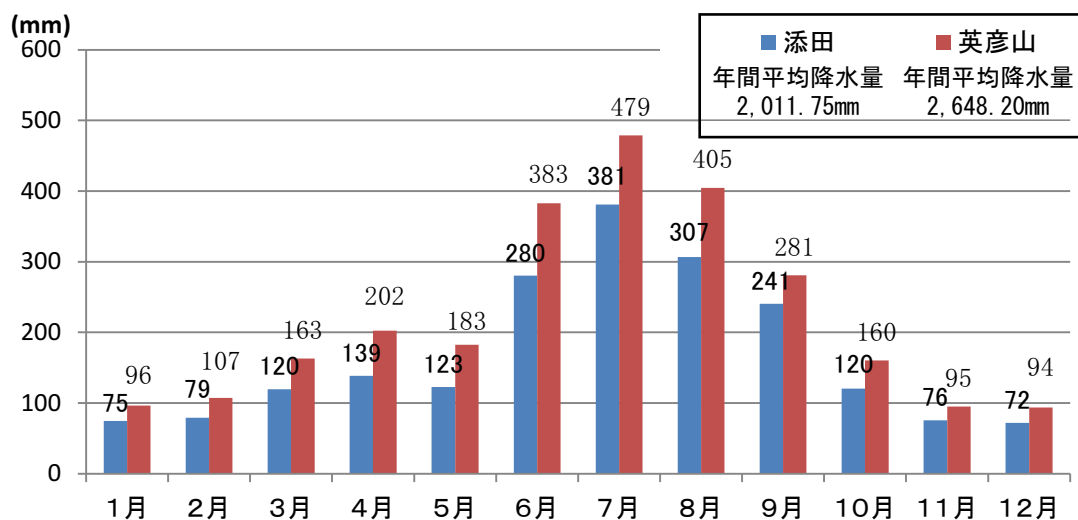


図 月別の降水量

【資料：気象庁 HP】

* グラフ中の数値は、過去 10 年間（平成 25 (2013) 年～令和 4 年 (2022)）の平均値

(6) 植生

気象と同様に、本町は、添田駅周辺の平野部から英彦山の山頂で1,100m以上の標高差があるため、大きく2つの植生帯に分類することができる。標高700mまではスギやヒノキ、スダジイ等を中心とする照葉樹林が分布し、それより高い場所にはブナやミズナラ、イロハモミジ等を中心とした夏緑樹林が分布している。英彦山は、我が国屈指の霊山であるため自然が大切にされてきており、原生的な自然が広く存在し、北部九州随一の高山であるため、冷温帯の植物は県内唯一の植生地で、福岡県では最も自然度の高い山域といえる。

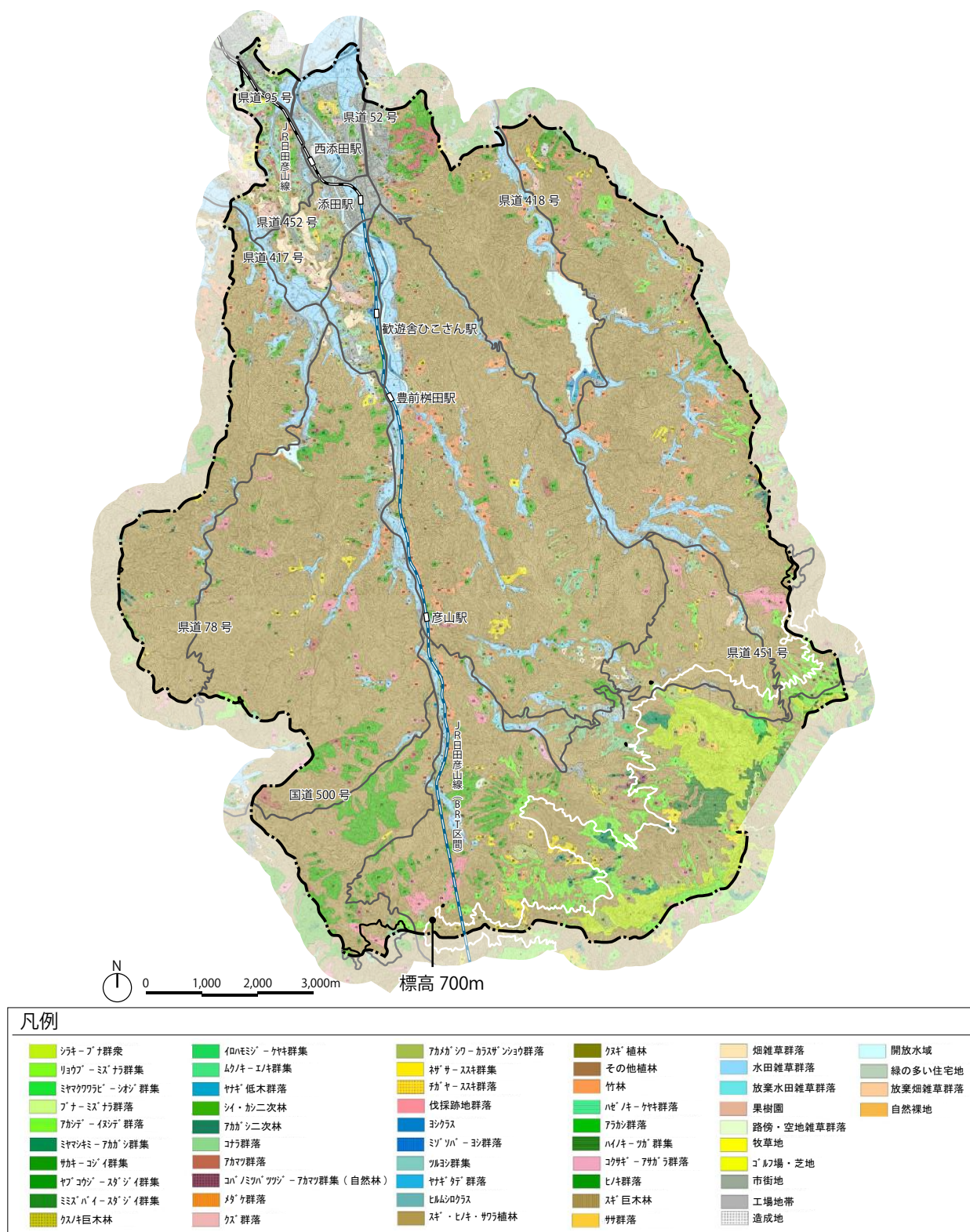


図 植生

【出典：自然環境保全基礎調査】

(7) 国定公園

耶馬日田英彦山^{やばひたひこさん}国定公園は、国内最初の国定公園として、福岡県・大分県・熊本県の3県にまたがる東西約40km、南北約50kmに及ぶ約85,024haの区域が昭和25年（1950）に指定された。

本国定公園の特色は、火山活動と河川の浸食で形成された山岳、高原、盆地、溪谷からなる自然地形にある。

本町内の区域は、英彦山を中心に2,692haが指定されており、英彦山の山頂付近の322haについては、ブナやクマイザサ、モミ、ツガの自然林が分布する県内でも類のない貴重な林であり、学術的・文化的に重要な地域として特別保護地区に指定され保護されている。

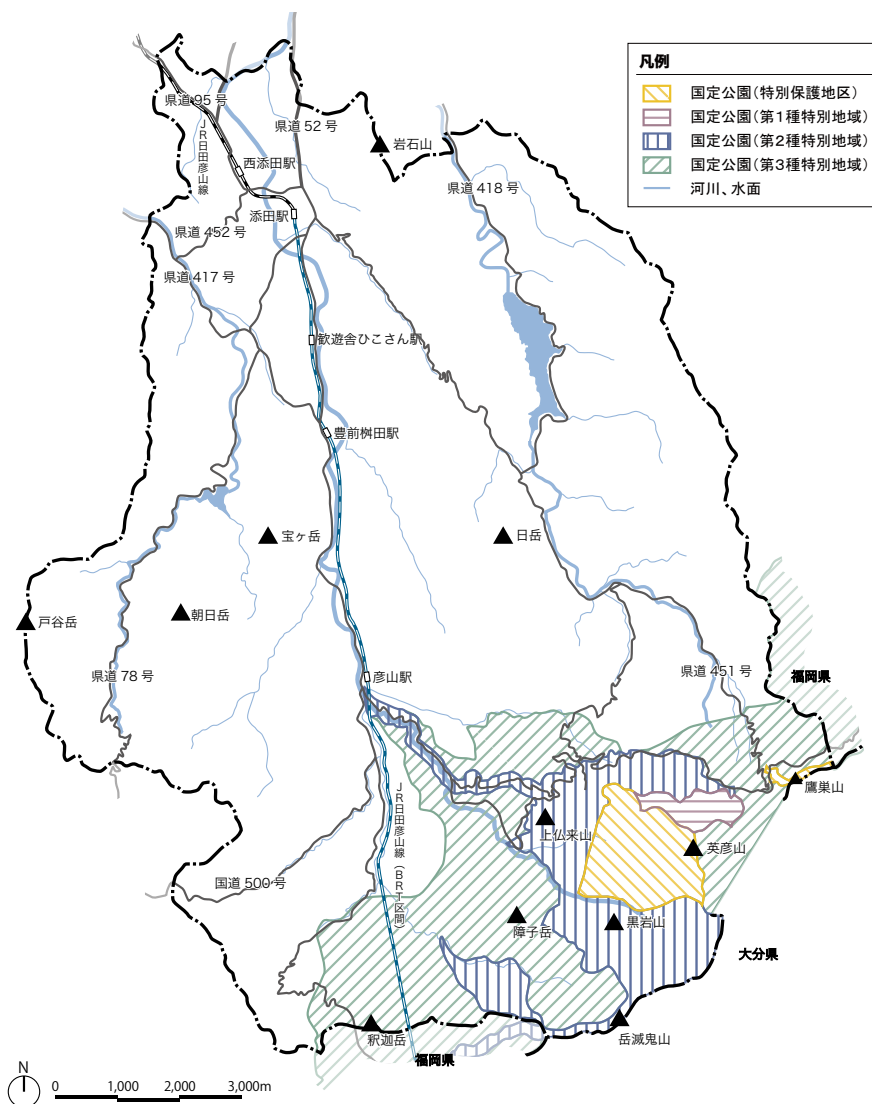


図 国定公園

参考) 日本百景「英彦山」

昭和2年（1927）4月、昭和の新時代を代表する勝景を新しい好尚により選定することを目的に、大阪毎日新聞社・東京日日新聞社の主催、鉄道省の後援により「日本新八景」が選定された。また、同時に「日本二十五景」「日本百景」が選定された。

これは海岸・湖沼・山岳・河川・溪谷・瀑布・温泉・平原の8つの部門において、一般投票により候補地を募集し、各部門の上位10位を選出の上、検討委員会が新日本八景を選定されたもので、同時に日本二十五景、日本百景が選ばれた。

本町の英彦山は、936,509票を獲得し、山岳部門で日本百景に選定されている。

(1) 町村の合併経緯

本町は、明治22年（1889）の市制・町村制施行により添伊田村^{そ い だ む ら}と野田村^{の だ む ら}、庄村^{しょうむら}が合併して添田村^{そ え だ む ら}となり、明治40年（1907）に中元寺村^{ちゅうがんじむら}と合併、明治44年（1911）の町制施行により添田町^{そ え だ む ら}となった。また、明治22年（1889）に落合村^{おちあいむら}と枳田村^{ます だ む ら}、彦山村^{ひこさんむら}が合併してできた彦山村^{つ の む ら}と昭和17年（1942）に合併し、昭和30年（1955）の津野村との合併により行政区域が拡大され、現在の町域となっている。現在の大字は、明治22年（1889）の市制・町村制施行により成立した8つの村の名称に由来するものである。

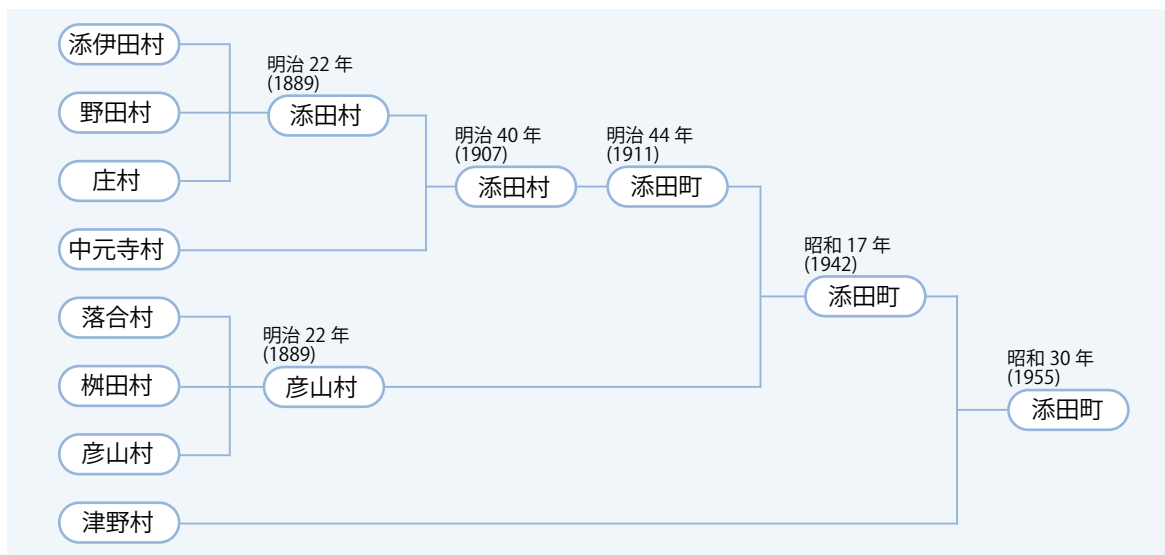


図 町の沿革

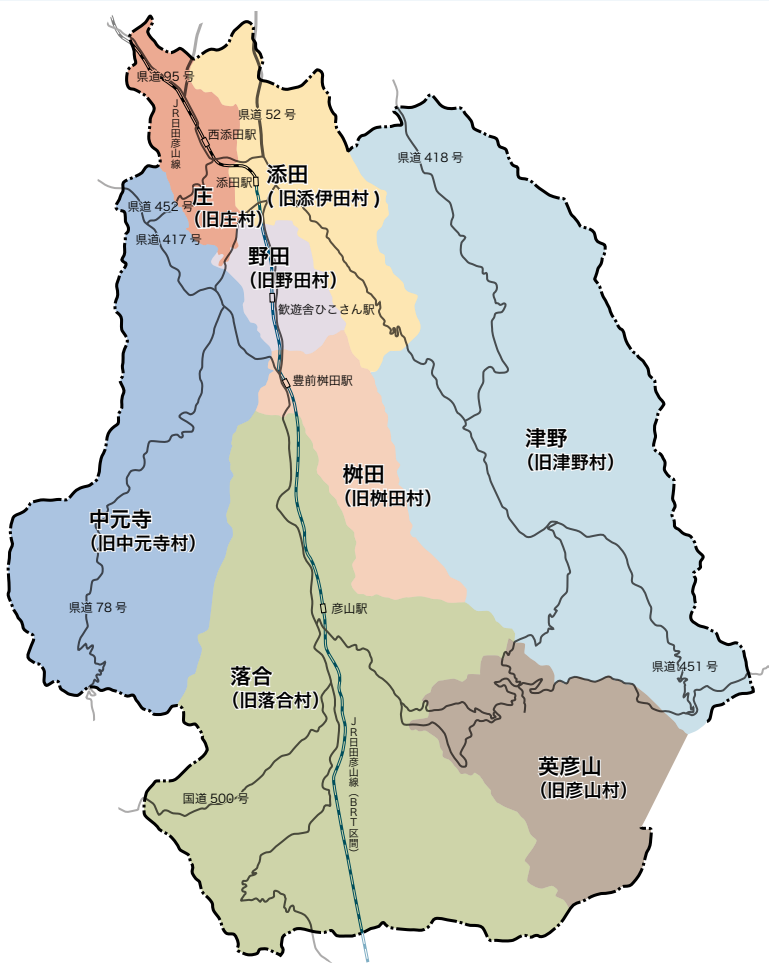


図 大字界

* 括弧内は旧村名

(2) 土地利用

土地利用をみると、町域の多くを森林が占めており、県道等の道路沿いに田が分布している。町北部の平地部分に建物用地が多い。

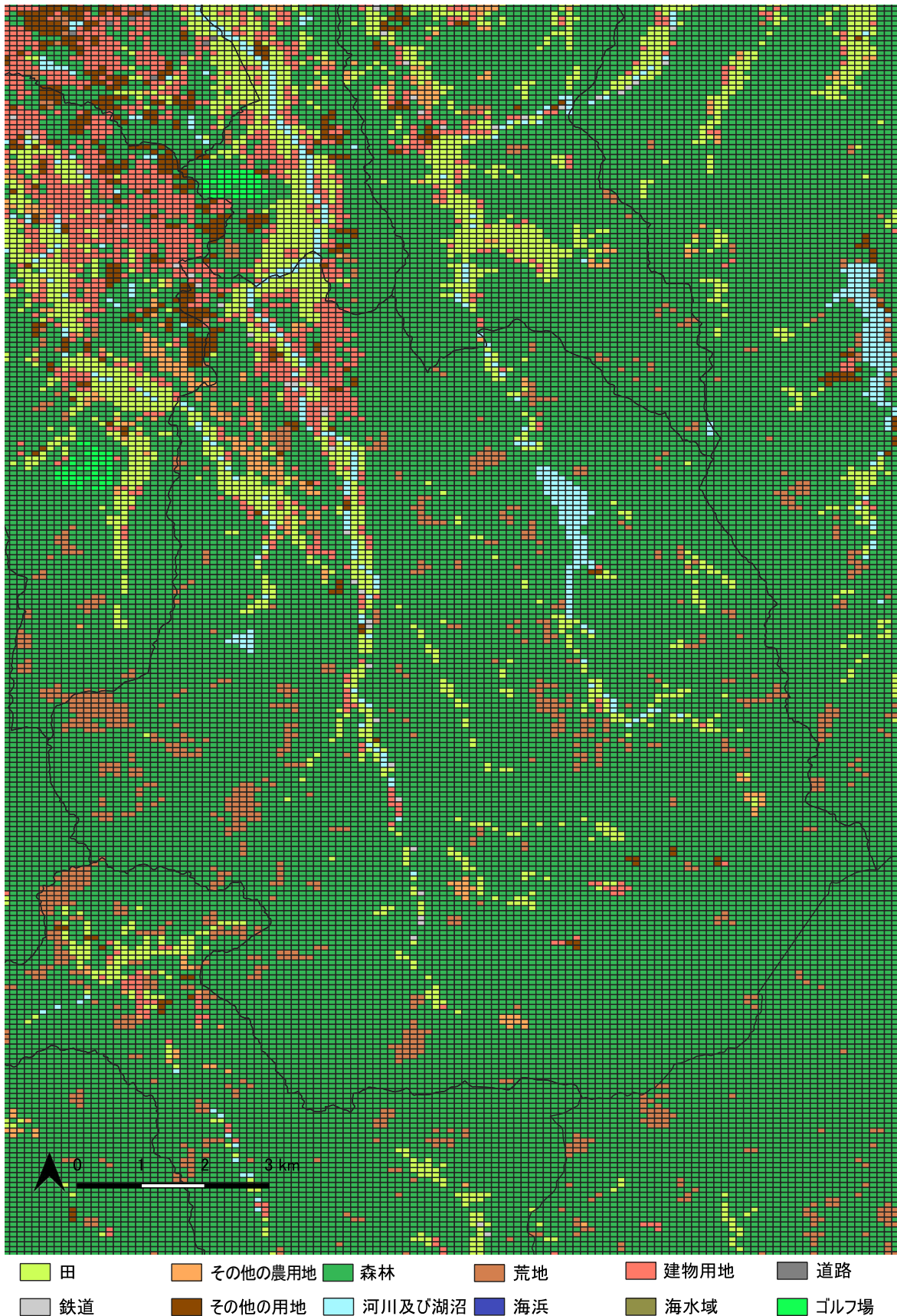


図 土地利用

【資料：「国土数値情報土地利用細分メッシュデータ」（令和3年（2021））】

(3) 人口

本町の人口は、令和2年（2020）時点で8,801人である。昭和10年（1935）以降、町村合併と石炭産業の発展により人口は増加の一途をたどり、昭和30年（1955）に27,978人となった。しかし、エネルギー革命による昭和44年（1969）の炭坑完全閉山とともに、最盛期から約11,000人もの急激な人口減少を来すこととなり、それ以降も少子化や都市部への人口流出により徐々に減少している。将来推計では、令和27年（2045）には4,612人となっている。

高齢化率は増加傾向にあり、昭和60年（1985）に約18%であった高齢化率は令和2年（2020）には約45%まで増加している。将来推計では、令和27年（2045）には約51%となり、今後も高齢化が進行することが予測される。

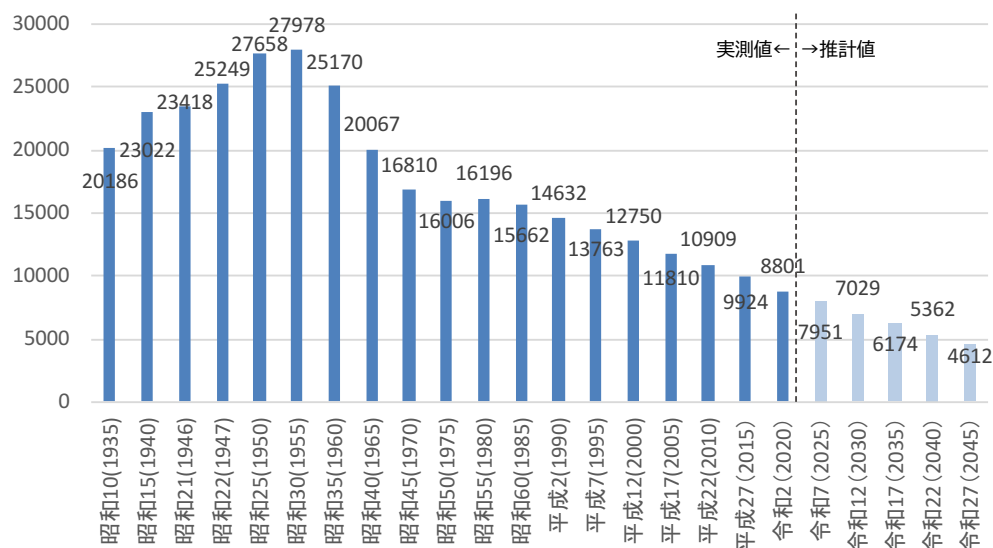


図 人口の推移

【資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018）、国立社会保障・人口問題研究所）】

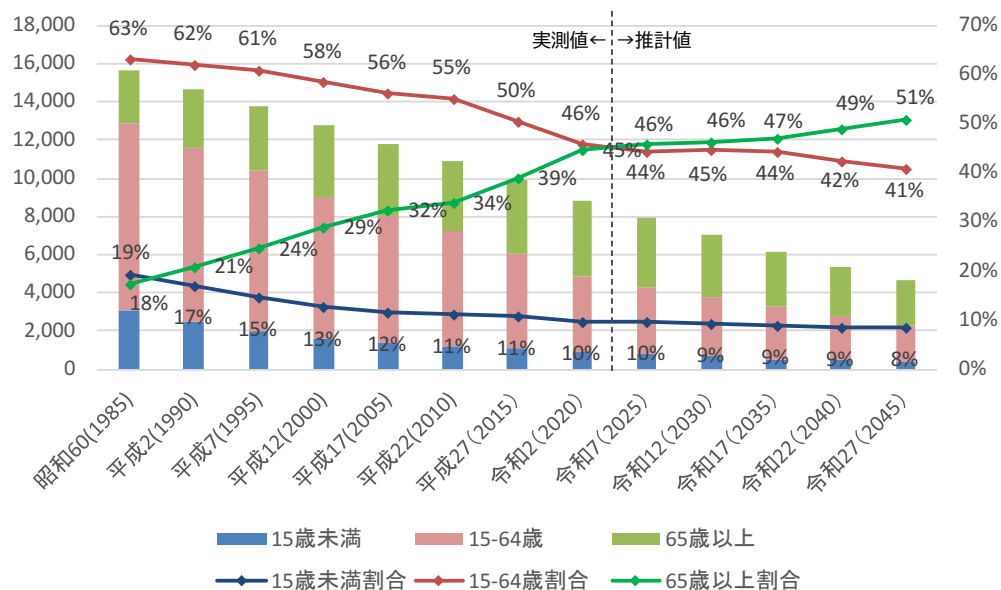


図 年齢区分別人口の推移

【資料：国勢調査、日本の地域別将来推計人口（平成30年（2018）、国立社会保障・人口問題研究所）】

(4) 交通

本町は、北部以外の三方向を山に囲まれ、昔から他地域との交通のため峠道が発達しており、国道 500 号や県道 78 号、県道 451 号等が整備され広域的な主要道路としての役割を担っている。

鉄道は、小倉駅から日田駅を結ぶ JR 日田彦山線が南北を縦断し、町内には 5 つの駅を有している。平成 29 年(2017) 7 月の九州北部豪雨により添田駅～夜明・日田駅間が被災したが、その後整備が行われ、令和 5 年(2023) 夏に BRT (バス高速輸送システム) の運行が開始された。本町内は添田駅～彦山駅間は一般道を走行し、彦山駅からは BRT 専用道を走行する。

そのほかの公共交通機関はバスがあり、本町と田川市を結ぶ川崎町経由の西鉄バス筑豊株式会社の 1 路線のほか、添田駅を中心としたコミュニティバスが巡回しており、学生や高齢者等の移動手段として広く利用されている。

英彦山の参道には、英彦山花園から英彦山神宮奉幣殿^{*1}まで、スロープカーが整備され、英彦山を参詣する人々に利用されている。

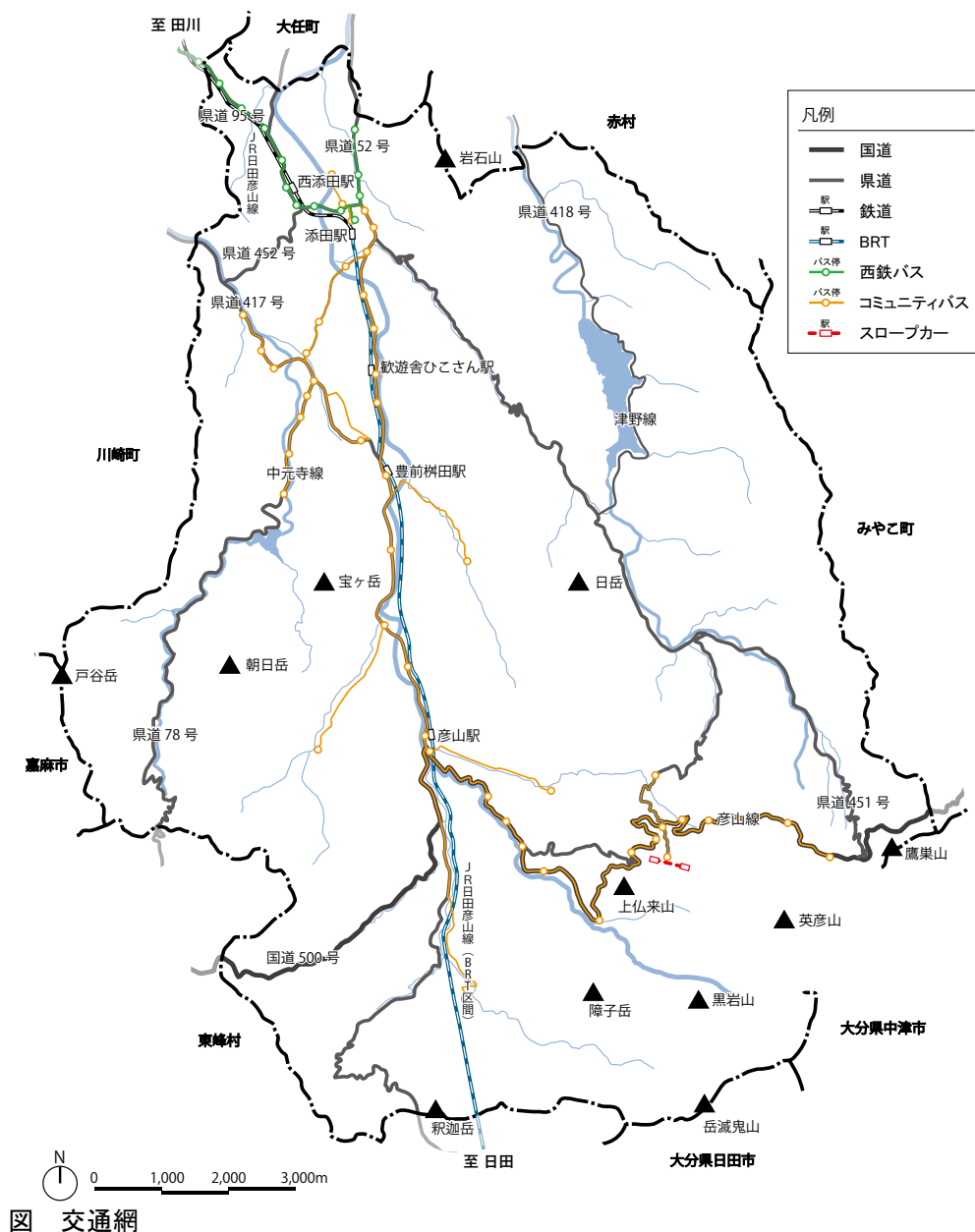


図 交通網

*1 文化財の指定名称は「英彦山神社奉幣殿」であるが、文化財を指す場合を除き現名称である「英彦山神宮奉幣殿」と表記する。

(5) 産業

ア 産業全般

本町の産業は、炭鉱最盛期には、英彦山への往来により形成された日田道^{ひ た みち}を中心に、生活物品やお土産物等の商店、工場が軒を連ね、活気に溢れていた。また、戦災復興による木材の需要増加に伴い、林業製材業も発達していた。しかし、昭和44年(1969)の炭鉱完全閉鎖に連動して商工業は衰退し、林業においても輸入木材^{きん の ぼるだい ち}の流通等により衰退の一途をたどっている。農業は、清流を利用した稲作のほか、金ノ原台地^{か き}での大根や人参を中心とした畑作も行われており、近年は、トルコギキョウやユリ等の花卉栽培^{かんゆうしゃ}も盛んに行われている。観光業においては、英彦山花園や道の駅^{かんゆうしゃ}遊舎ひこさん等の観光関連施設を整備し、行政と町民・企業が一体となって観光業を発展させ、今日に至っている。

産業別人口では、第三次産業が占める割合が高く、その中でもサービス業が多い。近年の産業別就業人口の推移を見ると、就業人口総数は総人口に比例して減少傾向にあり、令和2年(2020)には3,699人(総人口に占める割合約42%)となっている。

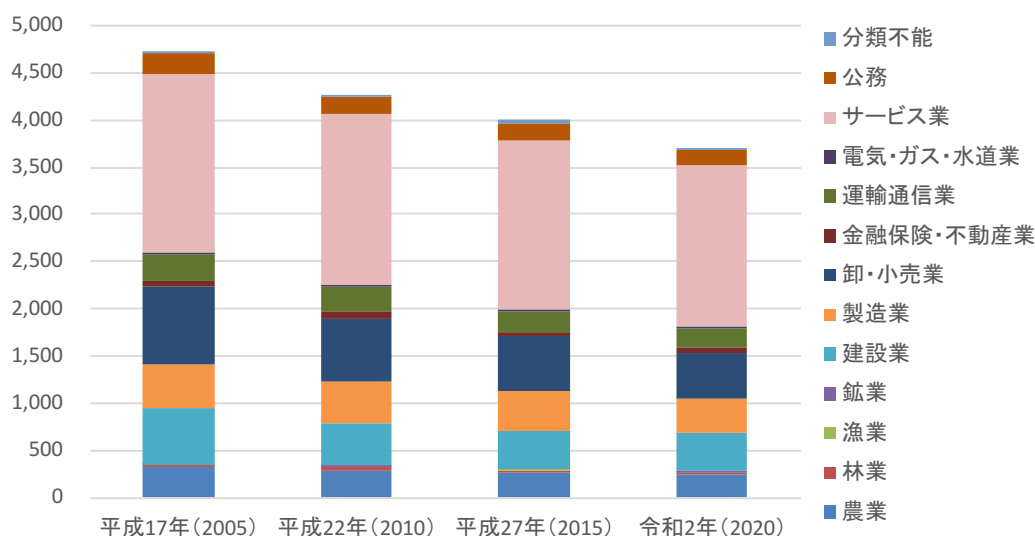


図 産業別就業人口の推移

【資料：国勢調査】

表 産業別就業人口

	区分	平成 17 年	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
第一次産業	農業	323	287	265	242
	林業	18	42	28	28
	漁業	0	3	2	3
	合計	341	332	295	273
第二次産業	鉱業	9	7	4	5
	建設業	600	445	409	411
	製造業	464	449	431	368
	合計	1,073	901	844	784
第三次産業	卸・小売業	817	660	573	484
	金融保険・不動産業	73	72	33	46
	運輸通信業	267	268	228	201
	電気・ガス・水道業	23	21	21	17
	サービス業	1,899	1,804	1,793	1,722
	公務	209	185	173	157
	分類不能	9	14	47	15
	合計	3,297	3,024	2,868	2,642
総合計		4,711	4,257	4,007	3,699

【資料：国勢調査】

イ 観光

本町は、有数の観光資源である英彦山を擁するとともに、観光振興としてバーベキュー等のアウトドアが満喫できる英彦山野営場や、町の花であるシャクナゲ 5,000 本をはじめ 70 種類以上、3 万 2 千本以上の花木が咲き乱れる英彦山花園、桜の名所として名高い添田公園、英彦山修験道に関する重要文化財等が展示されている英彦山修験道館、ドライブオアシスと物産販売所を兼ね備えた道の駅歓遊舎ひこさん、観光客の宿泊施設であるホテル和等の多種多様な施設が整備されている。

観光客数について、町内主要施設の入込客数をみると、その他（登山など）が最も多く、次いで道の駅歓遊舎ひこさんが多い。合計でみると、令和元年（2019）まで増加傾向にあったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、令和 2 年（2020）に落ち込み、それ以降は回復傾向にある。

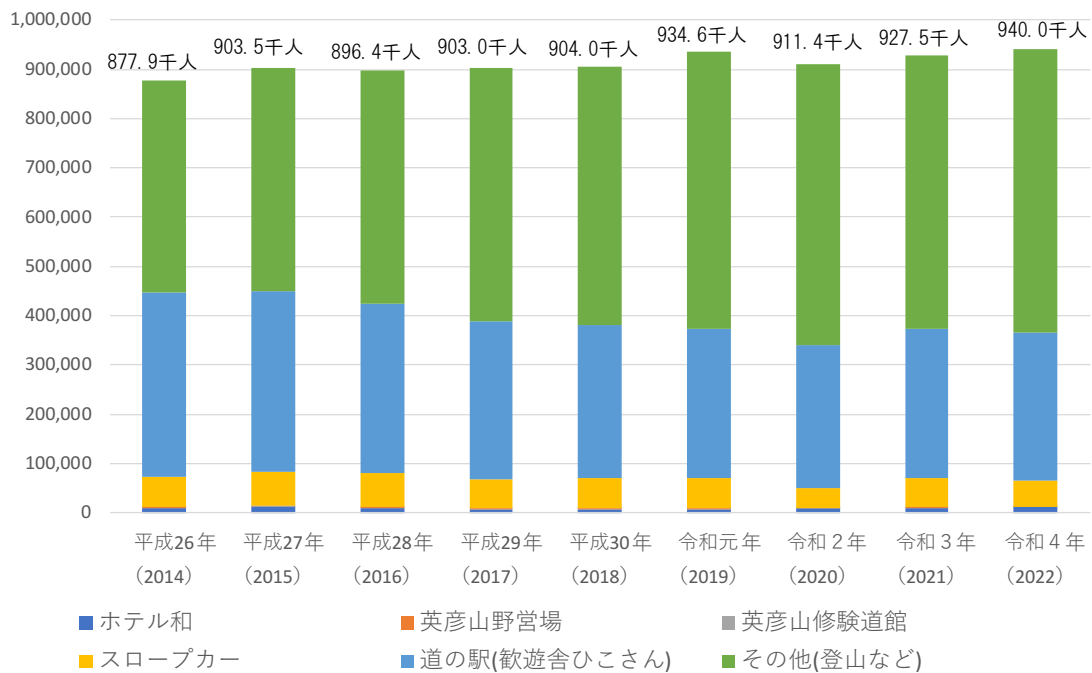


図 観光入込客数（主要施設入込客数）の推移

【資料：添田町資料】

表 年ごとの主要施設の入込客数

	ホテル和	英彦山野営場	英彦山修験道館	スロープカー	道の駅 (歓遊舎ひこさん)	その他 (登山など)	合計 (人)
平成 26 年 (2014)	10,338	617	1,612	60,520	373,829	430,984	877,900
平成 27 年 (2015)	11,365	737	1,802	69,313	367,428	452,855	903,500
平成 28 年 (2016)	10,500	1,017	1,384	67,172	344,620	471,707	896,400
平成 29 年 (2017)	7,775	936	1,169	58,415	319,622	515,083	903,000
平成 30 年 (2018)	7,944	1,252	836	60,222	310,556	523,190	904,000
令和元年 (2019)	8,300	964	666	61,134	302,954	560,582	934,600
令和 2 年 (2020)	8,954	583	598	39,950	290,803	570,512	911,400
令和 3 年 (2021)	10,803	725	817	58,558	302,965	553,632	927,500
令和 4 年 (2022)	11,746	621	710	53,010	299,011	574,902	940,000

【引用：添田町資料】



図 観光施設



道の駅歓遊舎ひこさん



彦山スロープカー



英彦山修験道館

参考) 田川まるごと博物館

田川まるごと博物館とは、田川地域全体を博物館に見立て、地域の豊かな自然や歴史、文化などを展示物としてPRするプロジェクトである(平成25年(2013)3月開館)。

本町のシンボルである「英彦山」や重要文化財である「英彦山神社奉幣殿」、「英彦山神社銅鳥居」、観光スポットである「添田公園」、「道の駅 歓遊舎ひこさん」等の資源の魅力をガイドブックやWEBサイトで情報発信している。

【たがわネットー田川まるごと博物館 (<http://tagawa-net.jp/>)】

